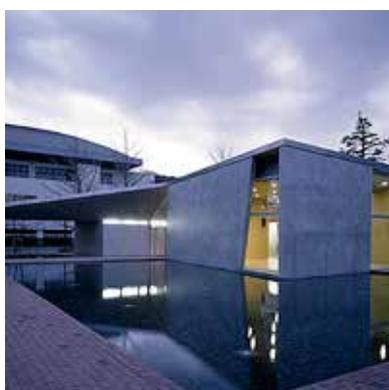


2021年度 後期

横浜市立大学 寄附講座報告書

～グリーン購入がひらく環境未来都市～



ごあいさつ

中小企業においても、SDGs（持続可能な開発目標）への取り組みは必須であり、近年は、積極的に取り組む企業が増えてきました。会員のみならずもSDGsの一環としてグリーン購入をはじめとした環境への取り組みを進めておられると思います。

SDGsは、企業にとっては、CSR（企業の社内的責任）課題の中から、社会セクター側の代表格でもある国連が重要と判断した取組みを指定したものと見え、経営戦略でもあります。したがって、取り組みを進めたら、事業評価を行い、マネジメントレビューに乗せる必要があります。ただ、SDGsのように社会性の高いCSRの場合、社会的意義と経営的意味の両方を評価せねばなりません。

このような評価は大変ですが、近年の大学教育においては、CSR や環境問題、まちづくりなどに力を入れている大学が多く、そのような教育を受けている学生の感想や意見は、企業にとって得るものが大きいと思います。

寄附講座は大学の正規授業の一環で行われ、学生には単位も出ますが、内容や運営については、担当する各企業が自由に設計できます。具体的には、授業の中で自社の取組みや課題に関するテーマを設定し、学生にグループディスカッションをさせて意見や提案を吸い上げるということも可能です。また、授業後に、自社で作ったアンケートを実施したり、指定したテーマでレポートを提出させたりすることも可能です。アンケート用紙やレポート用紙のご用意がなくとも、授業で使うレスポンスシートやレポート用紙をそのまま使って頂くことができます。

また、寄附講座は、「環境」をテーマに専門的に学んでいる学生が多く履修していることから、講義への関心が高い学生が履修しています。関心をもって学ぶ学生に接すると、講座を担当された社員の方にも刺激になるのではないかと思います。会社の業務や活動を担うことでやりがいを得ると、会社への求心力や業務パフォーマンスも高まります。寄附講座を通して良い社員を育てることもできるのです。

さらに、「環境」への関心が高い学生に自社をアピールする面もあると思います。感想カードを見ると、講義を聴いた学生に伝わるものが大きいことがわかります。当寄附講座は、学生が実践的学びを得る場として教育上きわめて大きな意義があるとともに、企業にとっても様々なメリットがある講座です。ぜひ貴社もご参加いただけましたら幸いです。



横浜グリーン購入ネットワーク会長
(横浜市立大学国際教養学部 教授)

影山 摩子弥

2021年度 横浜市立大学寄附講座内容一覧

講義順	日程 全て木曜日	事業者名	タイトル
1	10月 7日	カーボンフリーコンサルティング株式会社	SDGsの目標達成とカーボンオフセット
2	10月 14日	グリーン購入ネットワーク	グリーン購入のススメ モノの選び方で世界が変わる
3	10月 21日	株式会社 大川印刷	全集中で取り組む 脱炭素社会へ向けた行動変革
4	11月 4日	株式会社 オカムラ	オカムラの木材利活用による“サステナビリティの推進”
5	11月 11日	生活協同組合ユーコープ	大学生に共感の輪が広がるSDGsイベント企画と広報
6	11月 18日	シーバイエス 株式会社	CXS × SDGs × 感染症 ～「きれい・安心・安全」に過ごせる社会の実現
7	11月 25日	太陽油脂 株式会社	エシカル消費でSDGsに取り組もう
8	12月 2日	株式会社 湘南貿易	プラスチックリサイクルについて
9	12月 9日	東洋電機製造 株式会社	鉄道の歴史、鉄道のエコ ～コンパクトシティ・LRTと海外展開～
10	12月 16日	株式会社 トライフ	オーラルピース ビジネスと福祉の両立を目指す事例として
11	12月 23日	株式会社 ファンケル	ファンケルのSDGsと環境推進について
12	1月 20日	横浜市	いのちをつなげる街づくり ～生き物のつながりを考えた魅力あふれる街を目指して～

【対象学生】

2年生から4年生まで約13名

【授業の時間帯】

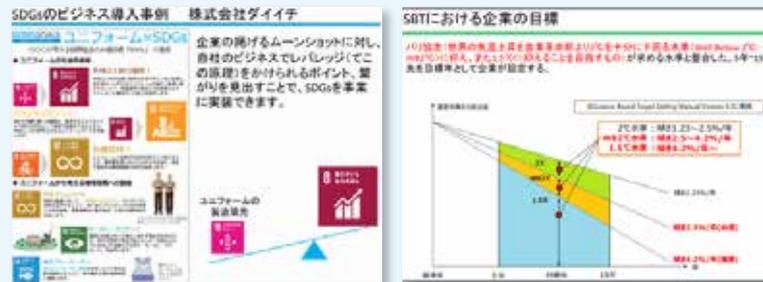
2021年10月7日(木) から毎週木曜日12:50～14:20 全12回



講義内容

2030年に向けた世界共通の課題であるSDGsを事業者がビジネスに実走する必要性について説明しました。社会課題の解決手法の中にビジネスのイノベーションが潜在していることや、顧客企業の発注の判断基準にSDGsへの取り組み状況の確認を行う場合があるなどの「機会」と、自社の事業や社内の取組をSDGs的思考で見つめなおすことで様々な「リスク」を排除できる点について事例を用いて紹介を行った。

後半では、気候変動に対する国内外の目標制度やそれに対する企業の動きなどを紹介。CO₂排出量の把握と目標設定、具体的な削減活動などが急激に広がっており、自社のみならず、サプライチェーン全体のCO₂を下げるために取引先との連携が求められる社会の流れが、その中でカーボンオフセットという手法による自社ビジネスの付加価値向上スキームが広がっている状況を開設した。



受講生の感想

- ・ 講義では、カーボンオフセットを題材に、その定義、実施方法、実施必要性を国内外の多くの事例を踏まえながら習得でき有益でした。やはり、本取り組みも含めた環境に配慮した取り組みは地球温暖化が進行し悪影響が表面化してしまっている今、取り組まない選択肢はないと思っており、環境配慮のなされていない産業は将来的に生き残れないと感じているので、各企業は環境配慮した取り組みを行うべきだと改めて感じました。また、CO₂を排出せざるを得ない産業、例えば航空業界はこの潮流にどのように順応するのかという疑問が聴講前は沸いていたのですが、エールフランスの事例を拝見し、産業構造転換への可能性も感じました。
- ・ 環境経営に関する講義を初めて受講するということもあり、知らないことばかりで非常に興味深い講義内容でした。自分自身がSDGsに寄与する意図がなくても実際は日常の一部として関われる環境づくりが重要であると思いました。また、大企業が環境に配慮した取り組みを行うことの影響をもっと利用できるのではないかと思います。講義では花王が取り上げられていましたが、上の改革に伴い、下も変わらざるを得ない状況を作ることによって環境に配慮した企業を増加させることができると思います。
- ・ 中小企業は大企業に比べ、急速な対応が難しいように思うのですが、このような環境に配慮した取り組みの流れに乗り遅れてしまった場合、中小企業に対する救済策はあるのか疑問に思いました。環境を配慮した製造等に転換する企業に対する援助等があるのか興味を抱きました。

担当者の感想

普段企業向けに展開しているセミナーの資料を用いて講義を行ったが、多くの学生が現場のリアルなSDGsの事例から学びを深めていただけたようで、やはり現場では何が起こっているのかという情報は理解の促進につながると再認識できました。

リモートゆえに質問は出なかったが、今後は講義中にもチャット欄などへ書き込んでいただく形で受け付けることで、さらなる理解を深めていただくとともに、当社の気づきにも生かせると考えました。

メリットとしては、当社の顧客企業の活動を学生にPRする場として生かすことができることが大きいと感じます。学生の感想にも「オフセットを実施する企業の存在を初めて知った」という内容が書かれていることもあり、今後も多くの企業の取り組みを紹介していきたい。



グリーン購入のススメ モノの選び方で世界が変わる

2021年
10月14日



グリーン購入ネットワーク 事務局長 深津学治

講義内容

グリーン購入の意義や必要性、効果等の基本的な情報の解説に加え、地球温暖化の加速など、地球を取り巻く環境問題とグリーン購入とのつながり、身近な毎日の生活と環境配慮型製品、SDGsとグリーン購入の関連性等をテーマに講義を行いました。また、グリーン購入をさらに身近に感じていただくために、①自分の出身自治体、②横浜市立大学、③自分のアルバイト先、④就職活動で気になっている企業・団体のうち、2団体のグリーン購入の取り組みを調べ、発表していただきました。



グリーン購入の取り組みを調べる

以下のうち、2団体のグリーン購入の取り組みを調べる

- ① 自分の出身自治体（市町村）
- ② 横浜市立大学
- ③ 自分のアルバイト先
- ④ 就職活動で気になっている企業・団体

調べる内容	・ 方針の有無 ・ 対象分野 ・ 実績
調べる方法	各団体のホームページで検索
検索キーワード	グリーン購入、グリーン調達、CSR 調達、温暖化対策実行計画

受講生の感想

- ・「環境保護に関わりたいが関わり方が分からない」「何をすればいいのかわからない」という人はたくさんいると思います。そのような人でも手軽に環境保護に関われるのがグリーン購入だと思いました。
- ・調べ学習では、就職を希望している監査法人や会計事務所等を調べましたが、ほぼグリーン購入に対しての取り組みが開示されていませんでした。監査法人等は営利企業とは違いますが、活動の中でたくさんのもを使用・消費しているはずで、監査法人自身も積極的に取り組んでほしいと感じました。
- ・消費者の行動によって企業の活動を変え、それが環境保全につながるということがよくわかりました。

担当者の感想

グリーン購入をさらに身近に感じていただくために、今年は自分のつながりのある団体や組織のグリーン購入の取り組みをパソコンやスマートフォンを使って調べていただきました。自分自身で調べることにより、一般論としての知識だけでなく、具体的な事例に触れることができ、社会のトレンドやSDGsの目標達成に向けて何が求められているのかを考える機会となったと思います。



全集中で取り組む 脱炭素社会へ向けた行動変革

2021年
10月21日



大川印刷
OHKAWA PRINTING, SINCE 1881

株式会社大川印刷 代表取締役 大川哲郎

講義 内容

大川印刷が取り組む再エネ100と環境印刷について紹介させていただきました。また本業を通じた社会課題解決について事例を共有した上で、以下のテーマで話し合ってもらい、個人や企業の脱炭素社会に向けた行動変容について考えて頂きました。

- ・「CO₂ゼロ印刷」を企業に選んでもらうには？
- ・印刷物を発注する企業を変える生活者の行動変容は？
- ・生活者自身が「CO₂ゼロ印刷」選ぶ行動変容につながるアイデアは？

これらの質問に対し「現実離れしてても構わない」という条件で意見を出し合ってもらいました。また、評価ポイントとしては「これはあり得ないだろう！」といった視点であることを伝え、楽しく活発に議論がなされました。

受講生 の感想

- ・印刷会社が取り組む脱炭素経営について、こんなにいろいろなことができるのかと驚いた。
- ・議論形式が行われたが、普段1人で意見を提出しフィードバックもほとんどないオンラインの授業の中で、周囲の人たちと意見を出し合い、話し合うことは自分からは出ない様々なアイデアがたくさん出てとても良かった。
- ・「CO₂ゼロ印刷」が世界に広がるのはとても難しいが、国民の意識や行動が高くなっていくために消費行動に具体的に働きかけるインセンティブを設定するなどできると良いと思う。

担当者 の感想

コロナ禍でオンライン授業が当たり前となっている中で、ワークショップスタイルの授業は学生さん達も既に慣れてきており、今後更なる活用が期待できると感じた。その一方で顔を合わせた上で実体を伴う形でのコミュニケーションも、学生さんの教育にとって必要なため、オンラインのデメリットも考慮した上で今後も授業を進めていきたいと思った。



オカムラの木材利活用による “サステナビリティの推進”

2021年
11月4日

OKAMURA 株式会社オカムラ サステナビリティ推進部:那須、遠藤、カスタムデザイン部:角田

講義
内容

オカムラのサステナビリティの推進の取り組みの中で「木材の利活用による」部分にフォーカスを当てた講義を実施。

1. オカムラの新しい経営理念、“オカムラウェイ”を説明

全ての人々が笑顔で生き活きと働き暮らせる社会の実現のための具体的活動を紹介



2. オカムラの考える木材の利活用。地球温暖化防のための活用と森林保全、経済活性化の関係等ついて、活動、製品の事例を交え説明



受講生
の感想

- ・聴講前、森林伐採はやめるべきことだという認識だったのですが、国産材利活用をすることで、森林を活性化させることによりCO₂吸収量を増加させることが可能となることを知り、一概にそうとは言えないと知りました。
- ・やはり何においても国産のものは高いという実態があると思う。木材に関する正しい知識を広め、消費者倫理を高めることで、エシカルな木材の利用・消費に繋げていけることができると思う。木でできた内装のスターボックスなどは、SDGsに興味があり、インスタの普及により「シンプルで無駄のない、丁寧なくらし感のあふれる写真や生活」を求める若者にとてもウケるのではないかなと思う。

担当者
の感想

特に行政や企業が何か事業や活動をする際は、多くのステークホルダーへの影響があることを念頭に計画して行って欲しいという、今回の講座意図を多くの受講生が良く理解して、地球環境を含めた、ステークホルダーへの配慮について分かってもらえ良かったと思います。



大学生に共感の輪が広がる SDGs イベント企画と広報

2021年
11月11日

COOP 生活協同組合ユーコープ 組合員理事 郷野智砂子

講義内容

【講義】生活協同組合は誰もがくらしやすい健全な社会をめざし、商品や事業を通じて、また組合員と一緒に様々な分野の活動に取り組み持続可能な社会づくりに貢献しています。講義では生協の果たす社会的役割と2021年にユーコープが開催したSDGsに関連したイベントについて紹介しました。子育て支援、環境、平和、食育、SDGs啓発など、いずれもコロナ禍の今、これまでとは違う形で工夫をこらし多数の方にご参加いただいた企画です。

【ワーク】その後ユーコープの取り組みを参考に「大学生に共感の輪が広がるSDGsイベント企画と広報」と題して、大学生向けのイベントとその効果的な広報について考えてもらいました。受講生はチームに分かれ、其々の企画の中から1つに絞って話し合い、最後にチームごとに発表してもらいました。(個々の提案は後ほどレポートで提出)



受講生の提案

1グループ) 「食品についてみんなで考えよう。時短レシピを考える」

オーガニック野菜など栄養価が高く健康のため取り入れたい食品を大学生に広めるため、学生が実際に集まって料理を学び時短レシピを考えるイベントを開催。終了後各種SNSでレシピや大学生が知りたい情報を発信しフォロワーを増やす。

2グループ) 「SDGs 1ヵ月チャレンジ」

SDGsを知ってもらうだけでなく生活の中で継続させることを目的に、イベント参加者は自分たちにできる行動のアイデアを出し合い1ヵ月間日常の中で行ったことをインスタグラムに投稿。1ヵ月後、いいね数やアイデア性を評価して表彰(特典あり)を行い、改善点を話し合う。近隣大学との連携やインスタの拡散で参加していない人にも取り組みを知らせる。

3グループ) 「大学生とSDGsに貢献する事業者や団体とのトークイベント」

より多くの大学生にSDGsに貢献する企業の取り組みを知ってもらうため、全国各地から参加できるリモート型トークイベントを開催。企業理解や同じテーマに関心のある学生同士の交流を図る。広報は大学の講義内での案内や、インスタグラムでSDGsに関する投稿アカウントを作りイベント告知を行う。

受講生の感想

- ・ユーコープの様々な企画を知り、子どもが自然・環境・平和などの問題に触れる機会を提供していることはとても重要なことだと感じた。
- ・今回のワークショップを通して自分事としてSDGsについて深く考えることができ、自分も含めたみんなが参加したい活動を展開できれば社会課題を効果的に解決に導けると感じた。

担当者の感想

寄附講座は、生活協同組合のこと、ユーコープの環境への取り組み等を知ってもらい、若者世代の考えを知る貴重な機会となっています。今回も受講された学生のみなさんの提案は大変参考になりました。ワークを行うことでSDGsを自分事として深く考えることができたという感想や、ユーコープの取り組みにも興味と共感の感想をいただいております。



CXS × SDGs × 感染症 ～「きれい・安心・安全」に過ごせる社会の実現

2021年
11月18日



シーバイエス株式会社 マーケティングR&D本部SDGs推進課 来嶋 美紀

講義内容

- 1) 新型コロナウイルス感染症とSDGsと感染症対策
 - ・新型コロナウイルス感染症とSDGsとの関係とは
 - ・弊社のゴール目標「3」の観点からの感染症
 - ・CXS社内ATP検査から感染リスクを考える
- 2) シーバイエス会社説明・経営コアコンピタンス
 - ・社歴・アイデンティティ・企業理念・ビジネス領域・ビジネス戦略・強み・社会的意義
- 3) リセッターサービスによるESG/SDGs経営実現
 - ・横浜市大リセッターサービス施工動画
- 4) ワークショップ
 - ・製品サービスの記事からSDGsゴールへの貢献を考える

学校における感染症対策の重要性



社内社結果



受講生の感想

私は、先進国の企業がSDGs達成のために現実的に行うべきことは、現在あるものの改良がメインだと考えています。今使用されているものの環境負荷をどれだけ削減し、環境に寄り添うものにできるか、そして持続可能な使用が実現できる製品を生み出すことが先進国が求められていることであると考えております。そこで本日紹介されていたCXSさんの製品はまさにそのようなものだと思います。個人ワークショップでは樹脂ワックスに代わるフロアシール材に関する記事を読んだのですが、このように現在使用しているものの代替品に可能性があると思いました。環境負荷の少ない製品は認知度や価格などを理由に、簡単には普及していかないと思うので、今後はそれらをどのように解決し普及度を高めていくかが課題になると感じました。

担当者の感想

今年も講義をさせて頂き、学生からの意見は非常に弊社にとって参考になりました。感染対策の重要性を弊社社内でのATP検査結果等を交えてお話させて頂きましたが、細菌ウイルスへの知識や衛生管理の大切も伝えられた事は、SDGsの貢献へも繋がったと思います。弊社の取り組みに対する学生の考察は社内へもフィードバックし持続可能な製品の開発へ役立てていきたいと思っています。



エシカル消費でSDGsに取組もう

2021年
11月25日

太陽油脂株式会社

太陽油脂株式会社 人事総務グループ グループリーダー：廣瀬 守、
人事総務グループ 副部長：藤澤 雅人、
原料購買・CSR推進グループ：堀江 菜月、矢田 馨

講義
内容

- 1) 太陽油脂のSDGs/環境への取り組みについて知る
- 2) 環境や人体に対する石けんのやさしさや、SDGsとの関係を学ぶことでエシカル消費の普及を計る
- 3) 石けんの原料としても使われているパーム油について、現地の状況やRSPO認証制度について学ぶ

企業紹介と当社のSDGsや環境への取り組みを紹介させていただいたのち、なぜ石けんが環境や人体に対してやさしいとされるのかについて、石けんの歴史や性質、正しい使い方について説明し、実際に実験を行いながら講義を行いました。



受講生
の感想

- ・消費者である私たちも、こうした取り組みを行っている製品の方が適正価格だと、自身の価値観を変化させていく必要があると思った。
- ・RSPOなど、持続可能な原料を使って環境を守りながら産業を行なっていくというのは非常に重要だと感じましたが、それらの環境認証制度やマークに対する認知度がまだあまり高くないことが課題でもあり感じました。
- ・御社のサステナブルな石鹸は、自然環境に回帰が早く、魚類の食餌として自然に戻すことができることが可能ということで、第一次汚染物質によって海洋汚染を悪化させている一員としては、非常に魅力的な商品だと感じました。
- ・全体を通して印象に残っているのは横浜市のSDGs認証に関するお話で、その時点で取り組みが不十分だったゴールについても言及されていた。客観的に自社を捉えて課題に取り組むところが印象的・魅力的に感じた。
- ・石鹸のはたらきについてもとても興味深く思った。今回の実験で、知識として知るだけでなく、実際に目で見て学び知識とつなげられることで、より理解が深まり、好奇心もくすぐられた。

担当者
の感想

昨年に引き続き、オンラインでの講義となりましたが、学生の皆さまの感想文を読むと真剣に講義を聴いていただいたようで、環境問題に対する熱意が伝わり、当社としても良い刺激になりました。石けんがなぜ環境によいのか、パーム油の課題や認証制度、よい製品を選んで使うエシカル消費の大切さなどを知っていただけでは感じます。また、Y-SDGsでの指摘事項を説明する事から客観的に自分たちの評価を受け止めている企業姿勢に共感を頂け、今後も誠実な姿勢を大切にしたいと思っております。

環境にやさしい製品づくりや消費者や学生の皆さまとの交流を通じて、世の中にとって必要とされるような企業であるよう進化し続けたいと感じます。



プラスチックリサイクルについて

2021年
12月2日



株式会社湘南貿易 エコロジー事業部 山本 直

講義内容

プラスチックとは何なのか？について知って頂き、現在、世界中で抱えているプラスチックごみ問題の現状と課題について認識頂いた。またプラスチックのリサイクル性と利便性・機能性についても触れて頂き、その中でプラスチックの種類、分別レベルによるリサイクル方法を実際の実例を元について講義し、身近なペットボトルキャップを利用したアップサイクルについても学んで頂いた。

プラスチックのリサイクルで大切なこと！

★プラスチックの中でも「種類ごとに分別」することが大切です！！

→ 分別することで、「リサイクルの仕方」、「できる製品」が変わります！

【分け方】

- ① キャップ
- ② ラベル
- ③ ペットボトル

Why we need to start recycling properly in Myanmar?

- It is reported from recent survey by EPI and Thon Myanmar in 2019 that 129 tons of plastics are polluting Myanmar everyday.
- Upper Myanmar region comprises 78 mountains and forest delta region and it takes around 40 days and 20 tons respectively.
- It is also found by the researchers that plastic pollution is the main in 17 Asian groups during the recent survey.
- In order to solve this problem we need to do:
 - REUSE
 - REUSE
 - RECYCLE

アップサイクルに色分別が必要な理由とは？

PETボトルキャップをそのままリサイクルすると、

色を分けずに製造すると、深い緑色になります。

リサイクルの色ですが、製品化したときには受け入れられにくいのではないかという懸念があります。

カラ-キャップ 100%

アップサイクルに色分別が必要な理由とは？

これらの製品は、白色、青色、その他のキャップに色分別をして色を作っています。

ブルーキャップ 100% ホワイトキャップ 100% ホワイトキャップ 82% / ブルーキャップ 18%

受講生の感想

- ・プラスチックのリサイクル性と利便性・機能性については気になっていたところであり、持続可能な社会を目指すにはリサイクル性を優先すべきだと考えている。
- ・マテリアル・サーマル・ケミカルリサイクルについてそれぞれ詳細をお聞きし、作業工程など動画での紹介もあり改めて勉強になった。
- ・アップサイクルのロゴの紹介もあり、魅力的だった。リサイクルすると元の素材の色が混ざり”きたない”製品になってしまうのがほとんどだと思っていたが、しっかり分別し特に色分けを行うことでカラフルな製品ができると学んだ。リサイクルの付加価値を訴えるのに効果的で期待できると感じた。

担当者の感想

今回の講義を通して、プラスチックそのものにも興味を持って頂き、なぜプラスチックリサイクルに洗浄、分別、回収が必要なのかについても理解頂けたことが良かったです。またリサイクルにより付加価値を付けるアップサイクルするためには色の分別も大事な点を理解頂けたことも良かったです。



鉄道の歴史、鉄道のエコ ～コンパクトシティ・LRTと海外展開～

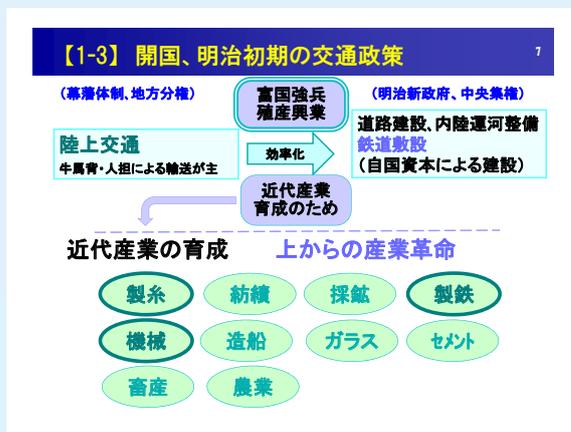
2021年
12月9日

TOYO DENKI 東洋電機製造 交通事業企画部：佐久間 秀一、経営企画部：丸山 達也

講義内容

(1)会社紹介ビデオ(約5分) (2)「環境とCSR活動のご紹介」(PP25枚) (3)「鉄道の歴史、鉄道のエコ」明治以降の日本の近代化に果たした鉄道の役割と、当社が電気鉄道の発展に貢献したこと、それと電気鉄道が他の交通機関と比べてエコなことを紹介します。さらに都市交通における利便性と新しい都市交通のあり方、海外展開などについて考えます。(PP65枚)

・目次：1_鉄道の開通、2_路面電車の登場、3_都市の拡大・過密化と鉄道、4_新交通システム、5_コンパクトシティとLRTなど、6_駅務機器、7_鉄道の特徴、8_皆さんの足_京浜急行電鉄、9_鉄道で発展した東京、10_人に優しい交通政策_ユニバーサルMaaS、11_これからの海外展開、12_カーボンニュートラル(今回12項を追加)



6-2 地球温暖化防止活動

工場棟

■ 太陽光発電システム
出力：500kW
年間発電量：64万kWh(2020年度実績)
東京製作所年間電力使用量 644万kWhの約10%

■ デマンド管理によるピーク電力のカット
■ 大電力使用時の事前届出制による、電力負荷集中の分散化

■ トラック輸送から鉄道輸送へ
モーダルシフト

2018年度 第26回 30年温暖化対策賞受賞

■ 水蓄熱式空調システム
2012年度「蓄熱月間」感謝状(証める)受賞
(一般社団法人蓄熱センター)

TOYO DENKI

受講生の感想

- ・今日の講座では、鉄道が様々な点で今後重要になってくることがわかりました。特に、物や人が移動する際の二酸化炭素の排出量を比べると圧倒的に鉄道の利用が好ましく、移動手段に鉄道を選ぶことが既に環境保全活動につながっていると考えました。鉄道産業としての取り組みとしては、特にユニバーサルマースが画期的な制度であり、この技術が発達すれば体の不自由な方や外出が難しいような方がもっと安心して鉄道を使うことができるのではないかと考えました。発表の資料がすごく手の込んだもので受講している側は多くの発見がある講座でした。本日は貴重な時間をありがとうございました。
- ・今回の講座で電車の歴史から企業が行なっている環境に対するアクションまでを深く知ることができました。個人的には、まちづくりに関心があるためコンパクトシティに使われている車両はご高齢の方でも乗りやすい低床式の車両を採用している点も興味深かった。
- ・分かりやすい説明とスライドだったと感じます。電車がどのような形で地球環境の保護にかかわっているかを理解することができました。

担当者の感想

社会インフラ向の電気機器を製造・販売している会社について、学生さんは馴染みがないようで、今回の講義(鉄道と環境の切り口)は新鮮だったようでした。

鉄道の歴史について、明治から平成までの過去と、将来を考えると、これからは交通全体の再生可能エネルギー使用について考察することが必要と思いカーボンニュートラルについて今回取り上げました。

また当社の事業と活動内容が講義を通じて理解され、当社への認識が高まり有意義な講義でした。



オーラルピース ビジネスと福祉の両立を目指す事例として

2022年
1月13日

ORALPEACE  株式会社トライフ 統括本部 植田貴子

講
義
内
容

高齢者や要介護の方々向けの安心安全な口腔ケア製品の研究開発、製造、販売を通じて、障害者の賃金アップを目指すオーラルピースのビジネスモデルをご紹介します。

なぜこのような取り組みを開始するに至ったのか、企業としての課題や壁なども交えてお話ししました。



受講生
の感想

- ・どの分野においてもコストがかかってしまう環境問題への対策だが、そこを克服し持続可能・循環型の社会の構築にはどんな工夫があるか、引き続き考えていきたい。
- ・大学卒業後、「障がい者の方の生活支援を、当たり前が彼らが社会で暮らしているように、行いたい」という気持ちから、社会福祉法人で働くのですがよりよい暮らしを利用者様と一緒にどん欲に追い求め、結果、将来の利用者様の獲得に繋がる(経営的にも成功する)ような、働き方をしていきたいです。

担当者
の感想

私たちが生きているこの時代、世界が抱えている社会課題や環境問題への学生の皆様の関心の大きさが伺えました。そしてそれをどう解決していく方法を各人が考え、行動に移していこうとされている様子がアンケートを通じて伝わってきました。今回は我々の事例を紹介いたしましたが、これからも様々なフィールドで、社会課題を解決する側になりご活躍されることをお祈りいたします！ Try your life、Try our life、トライフも応援しています！



ファンケルのSDGsと環境推進について

2021年
12月23日

FANCL 株式会社ファンケル SDGs推進室 町田 洸徳
正直品質。

講義内容

従業員2名が講師となり、ファンケルのサステナビリティ方針と、環境・ダイバーシティの取り組みについて紹介しました。

環境は、プラスチック削減の取り組みについて、容器回収の取り組み事例を紹介しました。

また、ダイバーシティは、多様な人材が活躍できる風土や、人事制度について、人事担当者が説明しました。



受講生の感想

- ・再生可能エネルギーを採用していたり、家庭で削減したCO2に応じて報酬があるプログラムや従業員参加型の取り組みがあったりというように、会社としての取り組みだけでなく、働いている人も日常的に環境配慮に取り組んでいるのはとても魅力的だと思いました。
- ・プラスチックを回収し、植木鉢にアップサイクルさせ地域のイベントに寄贈する取り組みを行っているということが画期的な施策であると感じました。
- ・健康経営とダイバーシティの推進に力を入れているということを知りましたが、具体的に行われている活動を詳しく知ることができてよかったです。コロナウイルスの感染拡大といった時代背景に合わせ、従業員に免疫効果が期待できる自社サプリメントを配布していることは、会社として望ましい取り組みだと感じました。
- ・女性の社員・管理職員割合が、SDGsの取組みを始める前から非常に高かったことが印象に残っています。女性が活躍できる社会を目指すといいつつもまだまだ男性優位の企業が多くある中で、女性社員の働きやすさや活躍が、本日の説明からも感じる事ができました。

担当者の感想

今回のセミナーを通して、ファンケルが行っているSDGsへの取り組み(環境活動、女性活躍推進)を初めて知った学生が多く、企業に関心を持ってもらえるきっかけづくりになりました。

学生の皆様が、幅広い視点で社会課題を捉え、SDGsを自分事として参画意識をもっていることは、大変心強く感じました。ファンケルは、これから次世代を担う学生の皆さんがSDGsを理解、実行していくお手伝いをしていきます。

そして、サステナブルな社会の実現に向けて、地域の皆様とともに、SDGs活動の輪を広げていきます。



いのちをつなげる街づくり ～生き物のつながりを考えた魅力あふれる街を目指して～

2022年
1月21日



横浜市環境創造局政策課

講義内容

<目的>

生物多様性の意味と保全の重要性を理解し、生き物のつながりを考えた魅力ある街「横浜」について考えてもらう。環境・生物多様性に配慮したライフスタイルを実践してもらう。

<内容>

- ・横浜市の組織紹介
- ・生物多様性とその恩恵
- ・生物多様性保全のための横浜市の取組
- ・グループワーク、発表
- ・まとめ

受講生の感想

- ・生物多様性を守るというのは生物のためという直接的な意味もあるけれど、最終的に私たちの生活にも直結するということを改めて実感しました。
- ・皆さんに取り組んでもらいたいこととして、「環境問題について学んだことや体験したことを情報として発信することを実践してほしい」という項目が、私たちが特に効果的に取り組むことが出来るのではないかと感じました。
- ・横浜市ではどのような取り組みが行われているのかを知る良い機会になりました。
- ・約100万種も絶滅危惧種が存在するということを知りませんでした。住んでいる場所にかかわらず、生物多様性を保つ努力を行う必要があるということが分かりました。
- ・緑による景観が注目される都市になれば、さらに魅力的な都市になるのではないかと感じました。
- ・グループワークを通して、人間と自然が共生するためにも、地域の交流など、若い人や子どもでも興味を持てるような工夫が大事で、環境教育を広めていく可能性があるのだと感じました。
- ・グリーンインフラとしての自然の活用を生物多様性はもちろんのこと、環境保全や景観形成、防災等にも有効活用し、効率的な運営が求められると思いました。

担当者の感想

環境問題は、地球温暖化と脱炭素について注目されがちですが、生物多様性保全についても理解を深め、喫緊の課題であることを認識していただきたいと思いテーマを設定しました。

我々が伝えたかった“生物多様性を生き物単体で捉えずに幅広い視点をもつこと”“生物多様性を守ることによってヒトの持続可能な暮らしも守られること”が届き、学生の皆さんが有益だったと感想をいただいたことは担当者として大変嬉しかったです。

また、生物多様性を保全した街づくりについて、グループワークで議論していただき内容を共有いただいたことで、我々も新たな気づき、視点を得ることができました。貴重な機会をいただきありがとうございました。



FSC® 森林認証紙に印刷しています。

